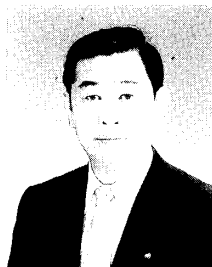


1999～2000年度



国際ロータリー会長
テーマ
ガバナー
第四分区代理
理事 役員

カルロ・ラビッツア
ロータリー2000:活動は一堅実 信望 持続
庄 司 稔 (大河原RC)
桑 原 茂 (塩竈RC)
第28代会長 小 野 薫
会長エレクト 佐 藤 邦 武
副会長 田 口 俊 男
幹 事 安 住 仁 三
会 計 渡 辺 浩 志
監 事 大 場 定 男
会場監督 影 山 英 雄

理 事 新 実 勝 雄 クラブ奉仕委員長 田 口 俊 男
職業奉仕委員長 大 場 光 夫 青少年奉仕委員長 林 智
社会奉仕委員長 伊 東 清 一 国際奉仕委員長 伊 藤 一 男
大 村 禮 二 郎 / 赤 間 利 夫 (会員数46名)

歴史の一コマに身を置ける幸せを感じて

第28代会長 小 野 薫

16世紀のフランス、医師であり予言者であったノストラダムスの「1999年の七の月、恐怖の大王が空から来るだろう」とのいわゆる終末予言で私の第28代は始まりました。幸いこの予言は何事もなく、日本人だけが多いに騒いだのは今考えれば何だったのだろうということですが、経済、社会の不穏な流れに日本全体がイライラ感の頂点に至っていたのかも知れません。

時のR1会長はイタリアのカルロ・ラビッツア会長、庄司稔ガバナー(大河原)の年度で「ロータリー2000:活動は一堅実、信望、持続」のR1テーマのもとで、1年間会長の重責を担わせていただきました。

この年度は分区のホスト・ローテーションもなく、地区プログラムの交換留学生、米山記念奨学生を受け入れもなく、例年に比較すると楽な年度であったかも知れませんが、安住仁三幹事とともに内部充実、30周年にむけてチームワークの底力UPを目指した1年でありました。

最終的に直前の赤間利夫会長年度の17名より1名減で次期に引き渡す事になりましたが、引継ぎ直後の3名については、我々年度の増強活動によるものと密かに自負しており、各委員会とも年度目標をほぼ満たす活動を進めていただき、年度終了時には、クラブの歴史を汚す事無く引き継げるささやかな満足感に浸っていたものでした。

クラブとしては特別なストレスもなく、大我に事を進めることが出来ましたが、特筆すべきは、この年度の後半より我がクラブが具体的に地区に注目されて来たと言うことです。

当時は公にする事は出来ませんでした。地区指名委員のハストガバナーのある方より翌年のノミネー候補者輩出の依頼を受け、会長職として回答を求められました。結果的にこの時点での話しは時間的な問題から一時保留となりましたが、間もなく2002～2003年度宮城東蔵ガバナー実現への流れへと行って行く事になります。確かに地区内における我がクラブの充実度は、ガバナーを輩出したことのないクラブの中では群を抜いており、前年のスポンサークラブの仙台東クラブのコ・ホストクラブとしての協力体制は、他クラブの皆様からも認めていただけるに十分なものでした。

このようなクラブに指名委員の方が目を向け、白羽の矢を射らんとするのも無理のないことと今にして改めて思います。

創立30周年を経、ガバナーを輩出して1年間ホストするなど、ある意味で輝かしい実績を重ね、前途は益々・・・なのかもしれませんが、これも一年一年の輪番制の中で、その時その時真剣に奉仕の理想を求めて行くという姿勢があってこそ積み上げて行くものと思います。

それぞれの職業を囲む環境が厳しくなるばかりの中でロータリアンを名乗って行くことの出来る幸せを感じ、歴史の積み重ねの中でしか出来ない、その時々新しい奉仕の理想への挑戦に今後とも参加させていただけるよう精進して行きたいものと思います。